

突然の外環オープンハウス

2011年7月20日から27日にかけて、外環国道事務所が各地でオープンハウスを開催した。告知チラシが新聞に折り込まれたのは、10日ほど前のこと。いままでに比べると、ずいぶん急な開催であった。各自治体の広報誌も、フォローできないほどの日程。

私は、世田谷会場と武蔵野会場に出向いた。

世田谷では、狭い会場に、見慣れない係員が山ほどいた。住民よりもよほど多い。現場レベルでは、大幅な人事異動があったようだ。部屋の中は、真っ二つに仕切られ、手前にパネル展示、奥にはテーブルと椅子が並べられている。こちらは、地権者コーナー。

部屋が狭いので、廊下にも展示が大幅にはみ出していた。ジャンクションの模型は、廊下の角においてあるが、暗くて見えにくい。なぜ、こんな無理な設営をしたのだろうか。

掲出されていた情報のメインは「費用対効果の見直し」のパネル。会ったことのない係員に説明を求めると、書いてある通りを読む。書いてあるのは、費用便益比が2.9から2.3に下がったこと。どのようなデータのインプットにより下がったのか、具体的に示してほしいというと、「それは答えられない」「なぜ?」「データは出せないことになっているから」。これでは、説明をしたことにはならない。

大深度法申請手続きのパネルがあった。別の係員に「事業者が決まらないと、申請できないと聞いている。事業者は、いつ決まるのか」と聞くと、「現在検討中なので、秋には決まる」

会場を出て、来場者と話していると、「国交省は、悪徳不動産屋よりひどい。土地を売りたいという人が行ったら、両隣の人もくどいてくれ。どうせ測量をするのは同じ手間だから、といわれた。築30年の家屋を過大に見積もり、土地の値段を低く見積もってつじつまを合わせている。土地の値段を上げないという思惑が見え見え」とのこと。高く買ってほしいという住民のはかない希望は、全く相手にされていない。

杉並は、今回無視されており、オープンハウスはない。仕方なく、武蔵野市の会場に出かける。こちらも、世田谷同様、狭い部屋を使っている。この地区は、地権者はいないはずだが、ご丁寧に地権者コーナーを設けている。従って、我々は

狭い会場内でパネルを見、説明を聞くことに。会場には、珍しく篠田計画課長が来ていた。早速、我々で取り囲み、いつものように一問一答で、話し合う。

費用便益のデータについては、事業見直しの時にしか公開していない。情報公開請求をしてくれ＝勝手な国交省ルール。

地下水、防災など、何の進展もない。

防災は、東日本大震災を受け、十分な討議がされているのかと思ったら、大したことはしていないようだ。インターチェンジ部、ジャンクション部の耐震性の見直しなどはしていない。トンネル内に閉じ込められた時の対策も、全く進展していない。とにかく、現場を見て決めればいい、ぐらいのことしか考えていないようだ。

因みに、篠田課長によると、今回の開催が急に決まったのは、買い取った土地を囲い、草が生い茂らない様に養生するための工事をする。これに7月からかかっているのに、住民の皆さんにそのことを知らせなかった。＝それなら、なぜもっと早くやらない？

土地の買収費 120 億円の消化のため、地権者に接触したいとの思惑が見え見えだ。

愛想はいいけど、答えの中身がない状態は、今回も続いている。